

リニア中央新幹線がもたらす インパクトについて

令和元年9月13日

山梨県

2027年 リニア中央新幹線 品川・名古屋間開業

リニア中央新幹線ルート概念図



※2045年開業を予定する大阪までの延伸は、財政投融资の活用により最大8年前倒し

<中央新幹線の整備計画>

建設線	中央新幹線
区間	東京都・大阪市
走行方式	超電導磁気浮上方式
最高設計速度	505km/時
建設概算額 (車両費含む)	90,300億円

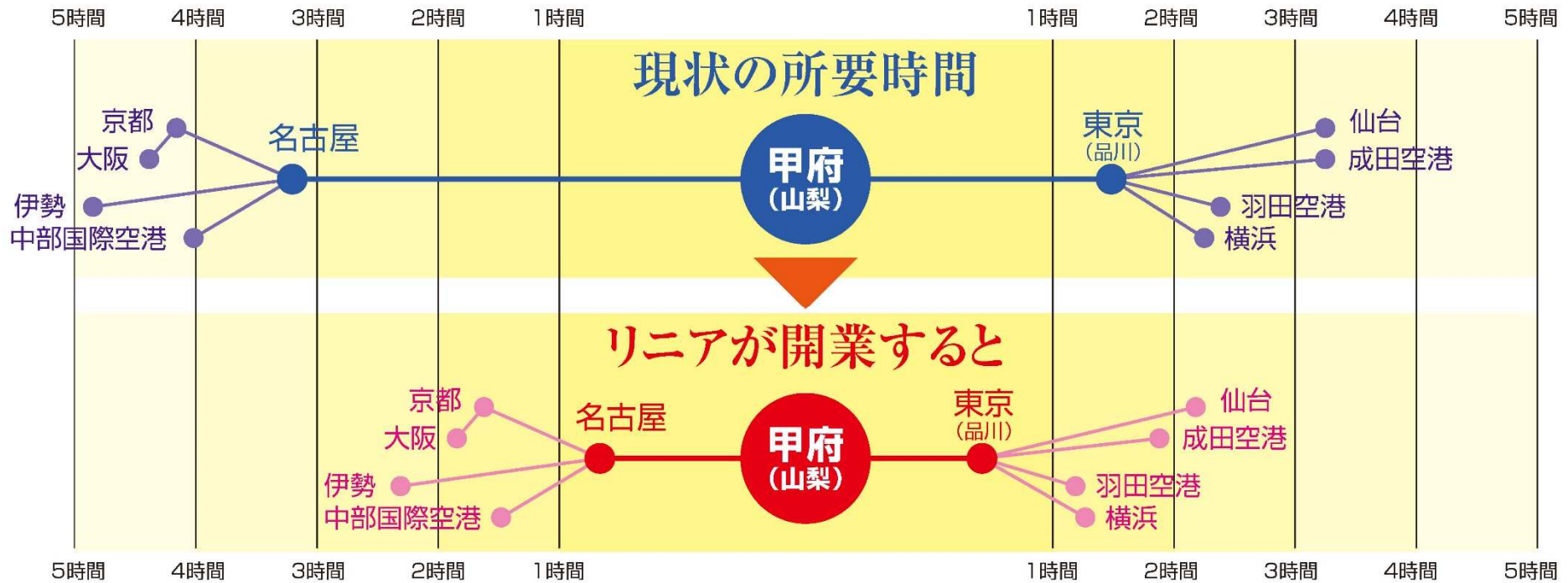
(注)建設に要する費用の概算額には、利子を含まない。

路線延長 285.6km(品川～名古屋)

		地上部	トンネル部	計
山梨県内	実験線	7.7km (約18%)	35.1km (約82%)	42.8km
	営業線	19.4km (約48%)	21.2km (約52%)	40.6km
	計	27.1km (約32%)	56.3km (約68%)	83.4km
品川-名古屋間		39.0km(約14%)	246.6km (約86%)	285.6km

リニア中央新幹線による時間短縮効果

➤ 山梨は東京・世界と近くなる



出典:リニア見学センター展示内容を基に作成

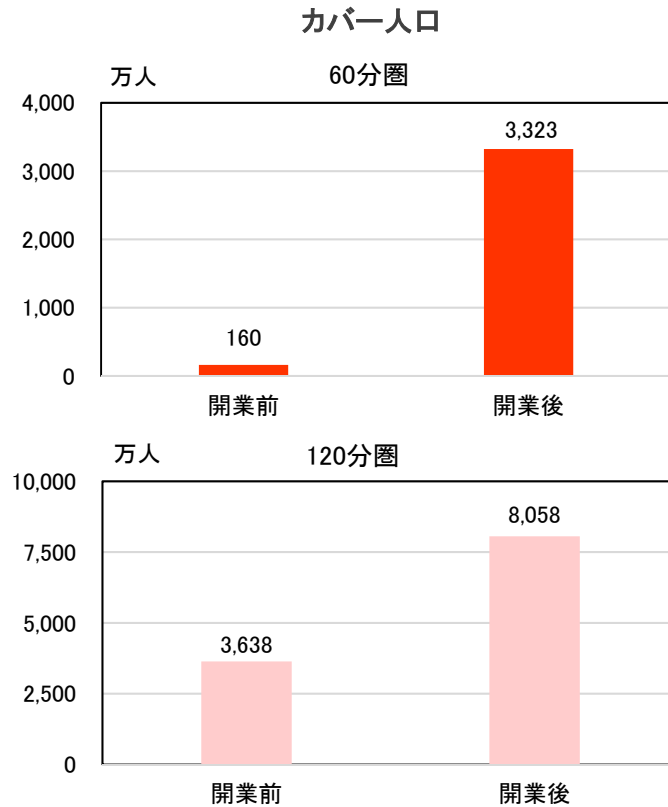


- ✓ 東京都心から約25分・名古屋から約45分
- ✓ 国際空港からのアクセス向上
- ✓ 中京圏・関西圏からの新たな軸

人と情報の交流密度が飛躍的に向上

交流可能な経済的勢力圏の広がり

[リニア山梨県駅起点、鉄道+道路]

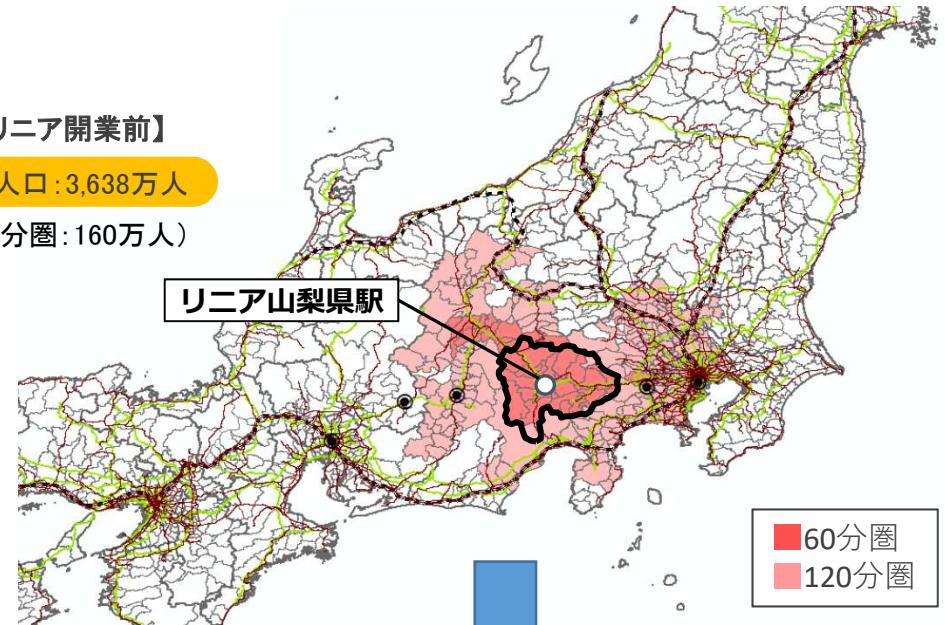


(参考) 1時間・2時間圏域算出の計算条件

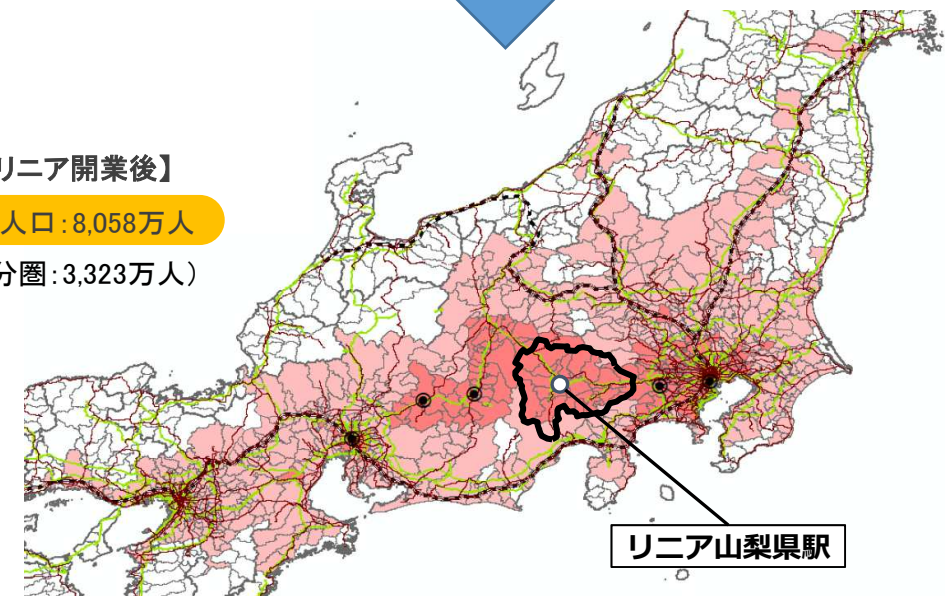
- 自動車利用については、高速道路のIC(双葉IC、甲府昭和IC)を起点とし、1時間・2時間以内のICが当該自治体内にあれば対象とする。最寄りのICが当該自治体でない場合、最寄りのICから当該自治体の行政界までにかかる時間を地図上で測定し、その時間を含めた上で1時間・2時間以内であれば対象とする。
- 鉄道利用については、甲府駅を起点とし、所要時間が1時間・2時間以内の駅が当該自治体内にあれば対象とする。待ち時間、乗換時間は除き、乗車時間のみの合算とする。

出典:国土交通省 スーパー・メガリージョン構想検討会資料より

【リニア開業前】
圏域人口:3,638万人
(60分圏:160万人)

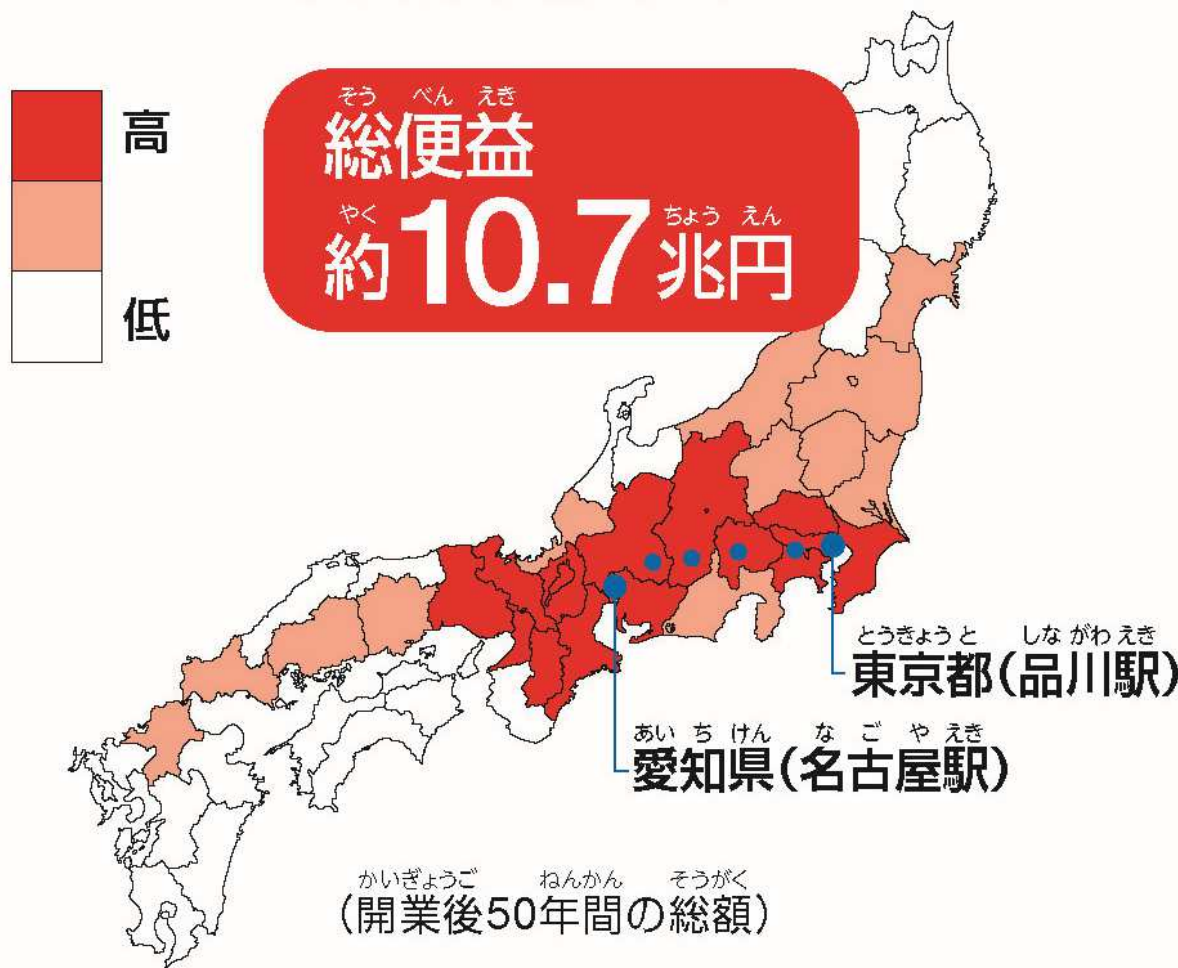


【リニア開業後】
圏域人口:8,058万人
(60分圏:3,323万人)



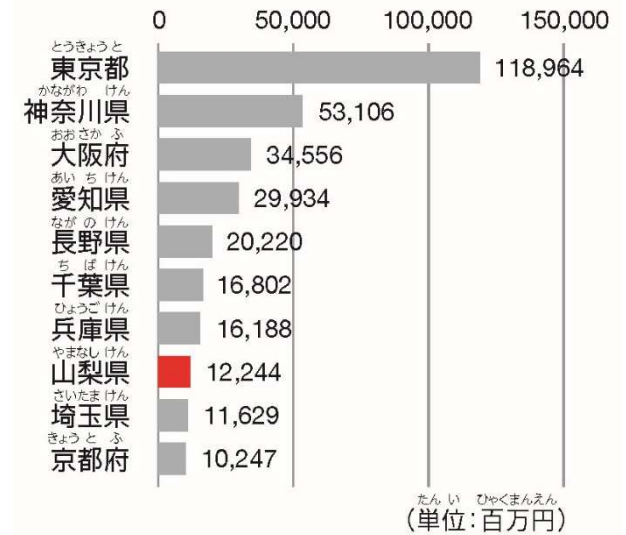
時間短縮による経済効果（便益）

経済効果（便益）の広がり

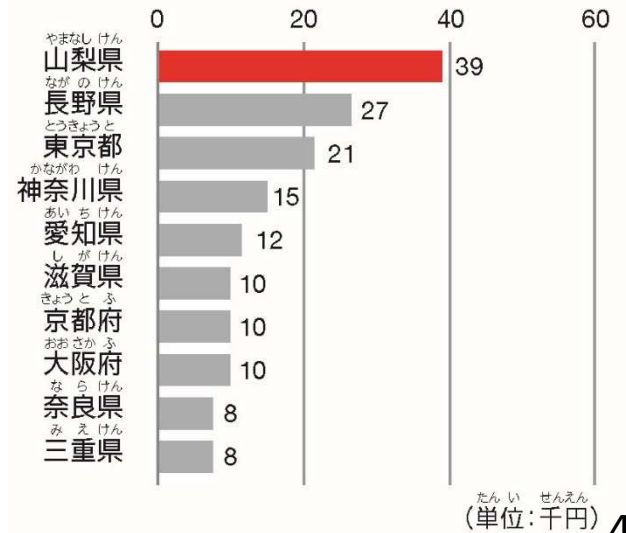


出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

単年度便益トップ10



世帯あたり便益トップ10



世界を先導するスーパー・メガリージョンの形成

スーパー・メガリージョン構想（国土交通省 令和元年5月策定）より

スーパー・メガリージョン構想の目指す方向性

① 新たな価値を生み出すために

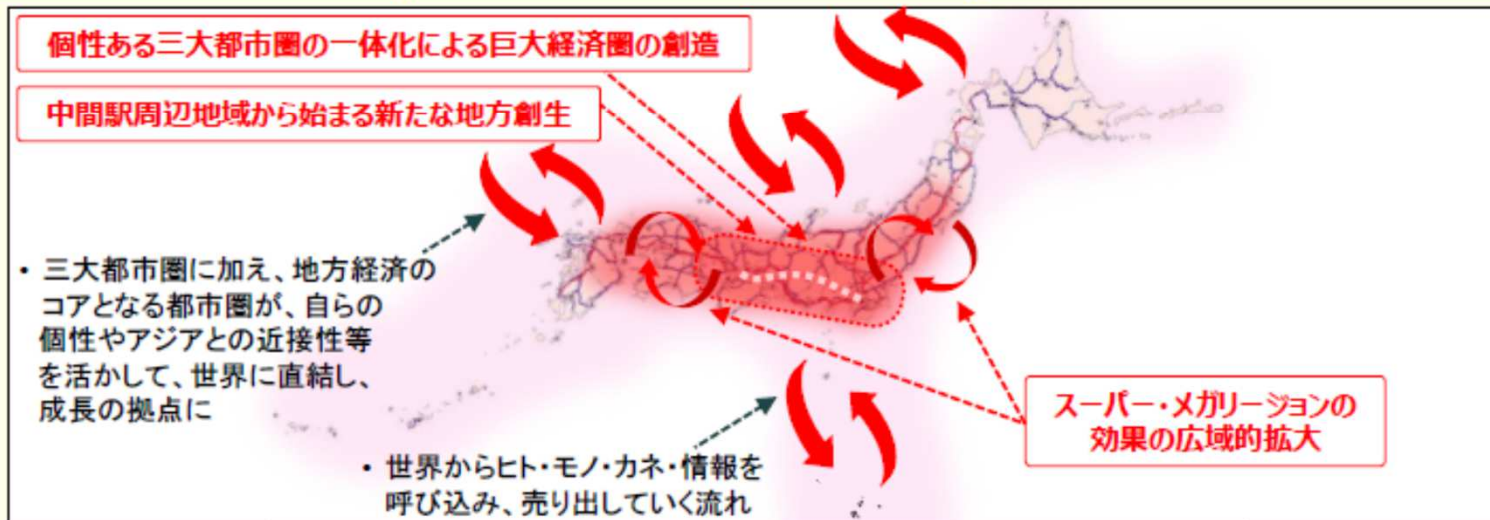
- ・ 知的対流を創出・強化し、国内外の多様な対流を活発化
- ・ 全国各地の個性を結びつけ、価値創造を図る

② 持続可能な社会を形成するために

- ・ 新たなビジネススタイル・ライフスタイルを見据え、様々な社会システムを転換
- ・ 各地域の個性や多様性を重視する価値観の下で、地域の魅力を強化

③ グローバルマーケットで羽ばたくために

- ・ 国内マーケットだけでなく海外マーケットで評価される新たな産業・サービスを創出
- ・ グローバル人材の育成に加え、国内制度や商慣行等の「内なる国際化」を推進



中間駅周辺地域から始まる新たな地方創生

- ◆ 多様な人材が活発に行き交い、クリエイティブな交流が生まれる、新しい知的対流拠点に発展
- ◆ 都市と地方にまたがる新たなビジネススタイル・ライフスタイルを可能とする、新たな居住の選択肢を提供
- ◆ Society5.0の革新的技術と豊かな自然環境が融合した、独自性と先進性の高い地域に発展する可能性

- ✓ 地域の強みを活かした産業を育成し、圏域を越えた産業クラスター同士の連携強化等により、新世代の新たな産業へと発展
- ✓ 自然豊かな居住環境、多様なツーリズム、社会参画のプラットフォーム等の形成により、地域独自のライフスタイルを提供
- ✓ 地域内の主体的取組と地域外の人材の知見を融合すべく、各地域の魅力を大切にする価値観をもつ関係人口を拡大
- ✓ リニアによる東西方向の連携軸に加え、各駅から南北方向に伸びる高速道路との連結性を強化し、対流を活発化

リニア中央新幹線がもたらすインパクト

スーパー・メガリージョン構想（国土交通省 令和元年5月策定）より

1 フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションが生み出す新たなイノベーション

- ・ イノベーション創出による生産性向上が不可欠となっており、フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションを通じた予定調和なき対流の重要性が高まる
- ・ **リニア開通により、交流機会が増加、交流時間が拡大し、新たなイノベーションを生み出す**

2 時間と場所からの解放による新たなビジネススタイル・ライフスタイル

- ・ **リニア開通による時間と場所からの解放が、暮らしに多様な選択肢をもたらす**
 - ・ 男女問わず労働参画し、子育てとも両立しやすい環境
 - ・ 高齢者の社会参画により、豊富な知恵や経験が様々な地域の価値創造に寄与
 - ・ 二地域居住等、都市と地方にまたがる全く新しいビジネススタイル・ライフスタイルの誕生

3 海外からの人や投資の積極的な呼び込み

- ・ **リニア開通による三大都市圏の一体化によって、海外からの魅力を向上**
- ・ 高速交通ネットワークとリンクし、訪日外国人旅行者の地方への誘客を更に促進

4 災害リスクへの対応

- ・ **リニアと新幹線・高速道路ネットワークが有機的につながり、多重性、代替性を強化**
- ・ 東京に集中する人口及び企業の中核機能等の分散や、首都機能をはじめとする中核管理機能のバックアップ体制の整備に寄与する可能性